

視覚化された教室環境で 子どもの思いや意欲を育もう



筑波大学附属大塚特別支援学校教諭

佐藤 義竹

さとう よしたけ 特別支援教育に関する外部支援・連携の担当になり、8年目。学校や企業と連携したさまざまな取り組みをしています。

★ はじめに

私は特別支援学校に勤務しており、2017年度から地域支援の専任として、学校や幼稚園、企業など多機関と連携した業務に取り組んでいます。それまでは学級担任として学級運営中心の業務を担っており、地域支援に関する業務はまったく経験したことはありませんでした。

この連載では、4人の先生方が交代で、それぞれのお立場から、居心地のよい教室環境をつくるヒントについてご執筆していただきます。4人の先生方には、今月号の特集1で「新年度！居心地のよい教室環境づくり」をテーマにご執筆いただいています。あわせてお読みください。

(編集部)

この部署に異動したときは地域支援のイロハもわからず、不安な思いでいっぱいでした。上司からの言葉や手本、そして経験を積み重ねつつ、自分なりの地域支援の理念を形づくりながら今に至ります。

上司にはさまざまな言葉をかけてもらい、今でも忘れずに感謝しています。私がかけてもらった数ある言葉の1つに次のような言葉があります。「難しい言葉をわかりやすく、相手のことを考えて伝えることが大切」。この言葉を踏まえ、特別支援教育から考える教室環境づくりの視点について、わかりやすく説明してみようと思います。特別支援教育から考える教室環境づくりには3つの視点（視覚化・構造化・共有化）がありますが、今回は、「視覚化」についてです。

★ 視覚化とは？

「視覚化」と似た言葉に、顕在化、可視化などがありますが、これもまたなんとなく難しいイメージです。もう少し馴染みのある言葉に言い換えられないか、私



なりに最も近いイメージではないかと考えたのが、「見える化」です。「見えないものを見るようにすること」「複雑なものをわかりやすく見えるように整理すること」ととらえると、馴染みあるものを感じられるのではないのでしょうか。

★「視覚化」が目指すこと

では、視覚化はどのようなことを目指しているのでしょうか。特別支援教育における「目標と手立て」の考え方を思いながら、その目的について考えたいと思います。

教室環境づくりにおいても、「児童生徒に期待する姿（目標）」と「その姿に向けて必要な支援（手立て）」を考えることが大切です。私は、視覚化の目的を次のように考えています。

子どもたちが見てわかるように、課題や手順を視覚的に示す（見える化する）こと

ここでの「見てわかる」とは、「見通し」のように先の予定がわかるといいうだけでなく、今何をするのかという活動の内容や要点がわかることなども含みます。教室環境や教材に視覚化の視点を取り入れることで、子どもたちが安心して過ごしたり、進んで活動に取り組みうとする意欲をもったりすることが期待されます。

★気持ちのメーター

ここからは、視覚化を活かした実際の教室環境づくりについて、ご紹介していきます。紹介していく教室環境（教材）は、私がこれまで作成してきたものの一

例です。つくり手によって教材の形もさまざまです。紹介しているものはあくまでも参考に、ぜひ目の前の子どもたちの姿と先生の発想を大事にしてください。

最初に紹介するのは「気持ちのメーター」です（写真1）。これは、イライラしたときに少し大きな声を出したり、周囲の些細なことをきっかけに余計にイライラとなりやすかったりする子どものことを考えてつくった教材です。

子どもはまず、上のメーターの矢印を動かして、自分の今の状態が「イライラ」なのか「楽しい」のかなどを視覚的に確かめます。次に、下の「リラクセスする方法を考えよう」に、現状に代わる過

し方（「音楽を聴く」「書き出す」など）のカードを選んで貼ります。自分が選んだ過ごし方を周囲に伝えることもできる教材です。選択肢のカードは6種類以上準備しておき、自分でカスタマイズできるようにしています。

大きさは、使い勝手を考えて全体をA5判にし、裏面にはマグネ

写真1

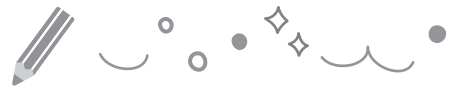


写真2



写真3





ットを貼り(写真2)、ロッカーなど個人のスペースに貼付し(写真3)、必要ときに生徒が自由に使えるようにしました。「気持ちのメーター」を活用することで、自分の状態を視覚的に理解するだけでなく、状況に応じた過ごし方を自分自身で選択し、対処することができるようになりました。

★ 着替えの手順表と身だしなみチェックシート

次に紹介するのは、「着替えの手順表」(男子生徒版)です(写真4)。「朝の着替え」(制服から体操服へ)と「下校前の着替え」(体操服から制服へ)の2パターンを作成しました。着替えの手順は、季節や場(学校か家庭か)で異なることがあります。そこで、「今の時期、学校ではこ

写真4



写真5



の順番で着替えるよ」ということがわかるように手順表を作成しました。

着替えの手順にこだわりが見られていた男子生徒には、最初は個別に付き添い、一緒に手順表で確認しながら「それでいいよ」「ぱっちりだね」などと言葉かけとともに着替えをするようにしました。また、様子を見ながら徐々に個別のかかわりを減らすことで、生徒が自ら手順表を確認して着替えができるよう、段階的に取り組むようにしています。

気をつけたいのは、教材の活用が最終目標ではないということです。教材は必要に応じて活用する程度にとどめ、状況や場に応じた手順で着替えができることを目標にかかわることが大切です。

着替え後の身だしなみまで意識してほしいと思っで作成したのが、「身だしなみ

チェックシート」です(写真5)。これも「気持ちのメーター」と同様に、A5判で印刷し、裏面にマグネット

を貼付して生徒個別のロッカーに表示するようにしました。

ちなみに、女子生徒の着替え等の支援は、女性の先生(または支援員)にお願いしています。指導・支援方針の共有という意味でも、このような教材を仲間に教職員同士が連動する意義があることを学びました。

★ 教室全体の環境づくりにも視覚化を

個別的な環境づくりだけでなく、教室全体の環境づくりにおける視覚化も大切です。子どもの実態や必要に応じて少しの工夫をすることで、みんなが安心して過ごせる、居心地のよい教室環境につながっていくと考えています。

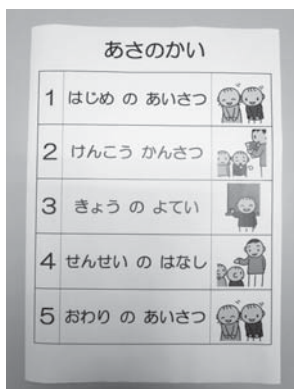
例えば、ごみ箱の分別表示です。学校では、ごみを分別するために1つの教室に複数のごみ箱が準備されて

写真6



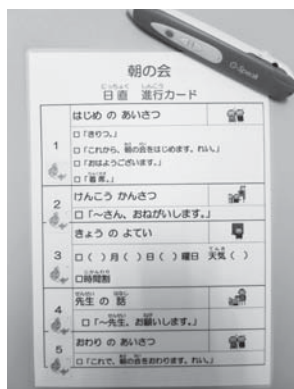
居心地のよい教室づくりのアイデア

写真7



全体に提示する進行表

写真8



日直が使用する進行表

いるケースが多いと思います。「もえるごみ」「資源ごみ」などの分別を、文字だけでなく色やイラストで視覚化することで、誰も見分けやすく、ごみを正しく分別して捨てやすくなります(写真6)。

朝の会の進行表も、イラストや手順の番号をつけて視覚化しています。全体に提示する進行表(写真7)と進行役の日直が使用する進行表(写真8)の2種類を用意しています。

★ 誰にとっても優しい環境をつくる

特別支援教育の立場から、教育実践の場で使ってきた教材をもとに視覚化について話を進めてきました。私は、視覚化は「特別な支援」ではなく「誰にとっても優しい環境づくり」の1つであると考えています。もちろんそこには障害や特性等の教育的ニーズを踏まえた環境づくりがありますが、より広く考えるところのように言えるのではないかと思います。

例えば、新しい学校や学級でスタートを迎える子どもの姿を想像してみます。大人でも、異動先の職場に初めて出勤するときは緊張すると思います。子どもが初めて教室に来たとき、机や椅子に自分の名前が貼ってあれば、安心してそこに向かうことができます。黒板に先生からの「入学(進級)おめでとう」のメッセージとともに、「今日はこんなことをするよ」と簡潔に予定が書いてあれば、見通しをもつことができます。

このような「誰にとっても優しい環境

づくり」による働きかけで、子どもたちは安心してその場で過ごしたり課題に取り組んだりすることができます。「居心地のよさ」につながるのは、誰にとっても優しい環境や、自分の力でやってみようと思える安心感のある環境だと思っています。視覚化は子どもたちが「見てわかる」「見て安心できる」環境をつくるための工夫ですが、教師の子どもへのかかわりにもよい影響をもたらすことがあります。

教師は、子どもを見て支援が必要であると感じたとき、そばへ行って寄り添いながら言葉かけや援助などの必要なかわりをします。そのときに、「計算式の立て方が間違っているよ」「○○してから△△するんだよって何回言えばわかるの?」ではなく、「この図を見てごらん」「あそこにあるポスターに書いてあるよ」と、視覚化された環境があれば、より具体的でわかりやすい言葉かけにつながります。子どもも安心して課題に向き合うことができ、少しずつ教師の支援がなくても自分の力でやってみようとする思いや意欲を育むことにもつながると思います。